



応援しあう東北

若者たちの想いが紡ぐ 未来への道すじ

ファミリーマートとTOMODACHIイニシアチブが、SDGsをテーマに、東北地方の地域課題解決に取り組む次世代リーダーの育成プログラムを実施、12月9日のスペシャルライブで成果を発表した。

東北から全国へ、そして世界へ

TOMODACHI ファミリーマート SDGs リーダーシッププログラム in 東北



東北の地域課題に取り組む若者たちを全力で支援!

東日本大震災から10年が経過し、東北地方の復興は新たなステージに入ったが、少子高齢化や地域産業の衰退などが進み、若者の域外流出も同時に課題となっている。そこで立ち上がったのが、「TOMODACHI ファミリーマート SDGs リーダーシッププログラム in 東北〜東北から全国へ、そして世界へ〜」。東北(本プログラムでは岩手・宮城・福島)の地域課題解決に取り組む、SDGsに貢献している若者たちに向けた、世代を越えて支えあう仲間を結び、熱い想いを実践するためのオンライン支援プログラムだ。農業、教育、空き家活用、コミュニ

ティーの構築など、多様な分野で挑戦している若者たちが参加。11月6日には中間報告会を兼ねたピッチ&プレステイブイベントを開催。18名が自身の取り組みやプランを披露した。参加者同士でフィードバックや応援をしい、アクションをより具現化するためのアイデアを得た。12月9日に行われたクロージングイベント「応援しあう東北スペシャルライブ」には一般の視聴者を含め180名が参加。討論会や各種表彰が行われた。プログラム参加者は、今後も世界に誇れる東北を築くために奮闘を続ける。

詳細はコチラ

プログラム	内容
応援しあう東北アカデミー (8月12日-13日)	復興からさらなる挑戦に踏み出した東北を舞台に、SDGsをテーマに社会課題に取り組む意欲のある若者87名が集い、同地域を基盤とする先輩者や仲間と出会い、活動への志を高めた。
アクションコース (8月31日-12月8日)	アクションコースに進んだ51名の参加者には、メンターの支援を受けながら、それぞれのアクションの実践と振り返りを重ねた。SDGsワークショップや東北にゆかりのあるアメリカ人、起業家との交流を通じて、自身のアクションの社会的、国際的意義への理解を深めた。地域社会に継続的な影響を及ぼすソーシャルアクションを自ら発信し、仲間を巻き込みながら活動を広げる術も学んだ。
応援しあう東北スペシャルライブ (12月9日)	各々のソーシャルアクションの進捗や研修の学びなど、4ヶ月間のプログラムの成果を発表。その模様は日英同時通訳付きライブ配信し、東北の未来について、一般視聴者も交えて熱く語りあった。

「応援しあう東北スペシャルライブ」アワード

FamilyMart SDGs リーダーシップ賞

東北の社会課題に取り組む参加者、またはそれを期待している参加者

- 石牧義法さん 宮城県石巻市北上町でかぼちゃを生産 交流人口を増やす取り組みで地域の活性化を図る
- 松田善知さん 宮城県黒川郡大衡村の社会経済価値最大化へ 人のつながりで持続可能なまちづくり
- 山崎啓恵さん 参加者が取り組む地域課題の視覚化 グラフィックレコーディングで貢献

応援しあう東北賞

このコミュニティに一番貢献した人を事務局と参加者で選出

- 高麗司さん 福島県内の食品ロス削減へ 多角的視点でのウェブサイト公開

TOMODACHI GO ABROAD賞

世界に向けて背中を押したい、世界に向けてもつ発信してほしい参加者

- 長夜海夢さん ヒノの美、猪苗代町のやっぴいもを観光資源に 独自アイデアの商品、サービスで地域へ発信

【選定理由・評価】 地域課題解決のために、自ら進んで取り組みを行ったことを評価。持続可能な社会につなげるアクション内容に留まらず、地域内外の多様な人々と協力することで本プログラムの理念である「応援しあう」を体現する姿勢を支持。今後の活動の領域拡大にも期待を寄せる。なお、受賞者には10万円の副賞が贈呈された。

TOMODACHIイニシアチブとは

東日本大震災後の復興支援から生まれ、教育、文化交流、リーダーシップといったプログラムを通して、日本の次世代のリーダーの育成を目指す米日カウンシルと在日米国外務省が主導する官民パートナーシップで、日本政府の支援も受けています。日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、より協同的に繁栄した安全な世界への貢献と、そうした世界での成功に必要な、世界中で通用する技能と国際的な視点を備えた日本の若いリーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。



参加者の声

第2の故郷である東北とずっと関わり続けたい



大人になっても地域と繋がれる未来を

渡邊 望都さん 活動地域:岩手県

高校時代、東北の被災地ボランティアに参加しました。本当に役に立ったのか、「お客様」になってしまっていたかと後悔が残りました。そんな経験から大学で東北の地域に貢献したいと思い、ボランティア活動に積極的に参加してきました。しかし、活動終了後は、地域との関わりが途絶えてしまいがちなことに寂しさを覚えました。そこで東北への想いを持つ学生が、東北とのつながりを継続的に育むことができるプロジェクトを創出したい、第2の故郷ともいえる東北の魅力を広げていきたいと、「東北返還プロジェクト」を始める。岩手県の名産であるホタテをかねた手紙で、お世話になった方に感謝の気持ちを伝えるアクションから始めました。

このアクションを起こすにあたり、本プログラムに参加したことは大きなモチベーションになりました。メンターの方の言葉をきっかけに、アクションについて、その是非から改めて考え直したりもしました。何より同じ志を持った仲間と出会い、将来につながる関係を築けたのは、大きな財産です。最終的に私のアクションには65名の社会人・学生が参加してくれました。今後もこの活動を継続していきたい、そして、継続していける仕組みを考えたいと思っています。

ホタテをかたどった手紙 (ホタテのお手紙)に感謝の気持ちを添えて、お世話になった方々に贈っている。

「誰一人取り残さない」環境づくりを実践



小川 泰佑さん 活動地域:宮城県

大切な人の明日をまねく社会

大学在学中に参加したボランティアを通じて得た、人の夢とその根幹にある人生に寄り添いたいという思いから医師になることを決意。東北医科大学に再入学しました。地域と病院をつなぐ架け橋となる、コミュニティドクターを目指しています。SDGsの誓いの「誰一人取り残さない」環境づくりを自らの使命とし、現在は大学のある仙台で「生活の延長線上にケアがある図書館を作ること」を目標に活動しています。この図書館には医療・福祉従事者が常駐し、利用者は医療や福祉のケアも受けられるようにする。子どもから高齢者まで、地域の人たちが誰でも気軽に立ち寄り、「つながり」ことができる場所になります。これを東北から全国、そして世界に誇れるモデル事例としていきたい。

このプログラムでは、孤立を解消する場づくりを行う大先輩からのアドバイスがあったことで、メンターの方にはご縁をいただき、また、「やれ」という一言で強く背中を押してもらいました。自ら地域に入り、特色を理解してこそ地域の方がなれる居場所をつくること。その一環として、お茶やお花を公園や商店街で配る活動や、早朝のこみ拾いの際の挨拶などを通して、地域の方との交流を図っています。

地域の色を知り、住民の方々の交流を深めるため「お茶の配布」を実施。地元の声に耳を傾けた。

耕作放棄地を活用し 野菜作りの喜びをシェア



小磯 愛さん 活動地域:宮城県

持続可能な農の暮らし

学生時代の友人と2人で、地域課題解決のため、耕作放棄地を活用して野菜を育てています。週末農業から始めましたが、法人化し、今は専業で農業に携わっています。農業初心者の私たちに何が出来るかを考え、思いに至ったのが、お客様の野菜が育つ過程を配信し、収穫物をお届けするオンライン代行栽培サービス「あれこれ畑」です。野菜作りは新たな発見の連続。この感動をたくさんの人に共有したいと考えました。循環する農ある暮らしを実現するため、農業資材は可能な限り、生分解可能なものを使用。野菜を育てるにはビニールではなくシュロ縄を使い、獣害防止用の囲いは竹で作りました。最初は漠然と「豊かな田舎暮らしの魅力発信したい」「地域課題である耕作放棄地を活用したい」という目的で活動を始めたが、本プログラムを通じて、より細かな目標を設定することができました。「野生動物を遠ざけるため、人が訪れる場づくり」「種刈りや収穫体験ができる交流の場づくり」といった2035年に実現したい夢マップを作成。今後は課題を持つ地域での活動の様子、そして夢マップ実現までの道のりをSNS等で発信することで、同じ志を持つ方々が一歩を踏み出す後押しにもなりたいと思っています。

福島県との環境、交流を深めるため「あれこれ畑」として活動。ともに働く佐藤さん(左)と。

有識者のコメント チャレンジの好循環を生み出すエコシステムの構築へ



佐藤 真久氏 (さとう まさひこ) 東京都市大学 環境学部 教授

チャレンジの好循環には、共にありたい姿を描く「デザイン思考」、つながりを行動に生かす「システム思考」、相互を生かす場が不可欠である。本プログラムはこれらをつなげ、社会のエコシステムの構築に貢献している。参加者は、一人では何とできないことを認識している。だからこそ、相手の力を借り、相手に自身の力を提供するといった応援しあう関係性を大切にしていく。今後のチャレンジの好循環に期待を込める。

ファミリーマートによる支援

ファミリーマートは、店頭募金「夢の掛け橋募金」を通じて、未来をつくる次世代への育成支援プログラムを提供しています。TOMODACHIイニシアチブへの寄付は、2013年から実施され、TOMODACHI女子高校生キャリアメンタリングプログラムなどによって、東日本大震災からの復興を目指し、東北の高校生へのキャリア支援を行ってまいりました。21年は、東北の若者が社会課題の解決に向けたソーシャルアクションに取り組む、地域に根ざす活動を実施するための支援を行いました。今後も、若い世代の支援活動を社会貢献活動の中心とし、持続可能な地域社会の発展のために取り組みを続けていきます。



TOMODACHI 女子高校生キャリアメンタリングプログラム



公益財団法人 米日カウンシルージャパン

https://www.usjapancouncil.org/ja/

